

予報期間 11月16日から11月22日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 18日は、低気圧が発達しながらオホーツク海を北東に進む。大陸の高気圧が日本付近に張り出し、西高東低の気圧配置となる。
- 19日は、高気圧が東日本付近に移動する。
- 20日は、高気圧は日本のはるか東へ移動し、気圧の谷が日本海に進む。
- 21日は、気圧の谷が日本の東へ移動し、大陸の高気圧が日本付近に張り出す。
- 22日は、高気圧が東日本付近に移動する。

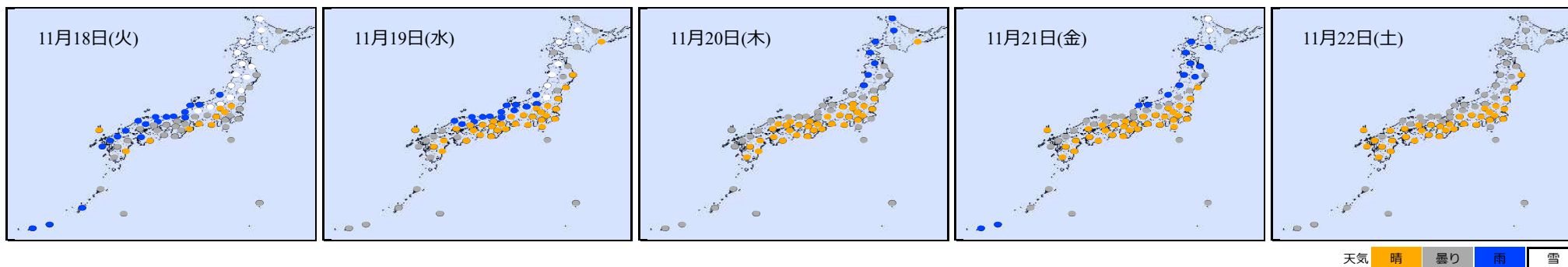
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 18日から19日にかけて、強い寒気が流れ込むため、北日本を中心に降雪量が多くなり、東日本や西日本の山沿いでも積雪となる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

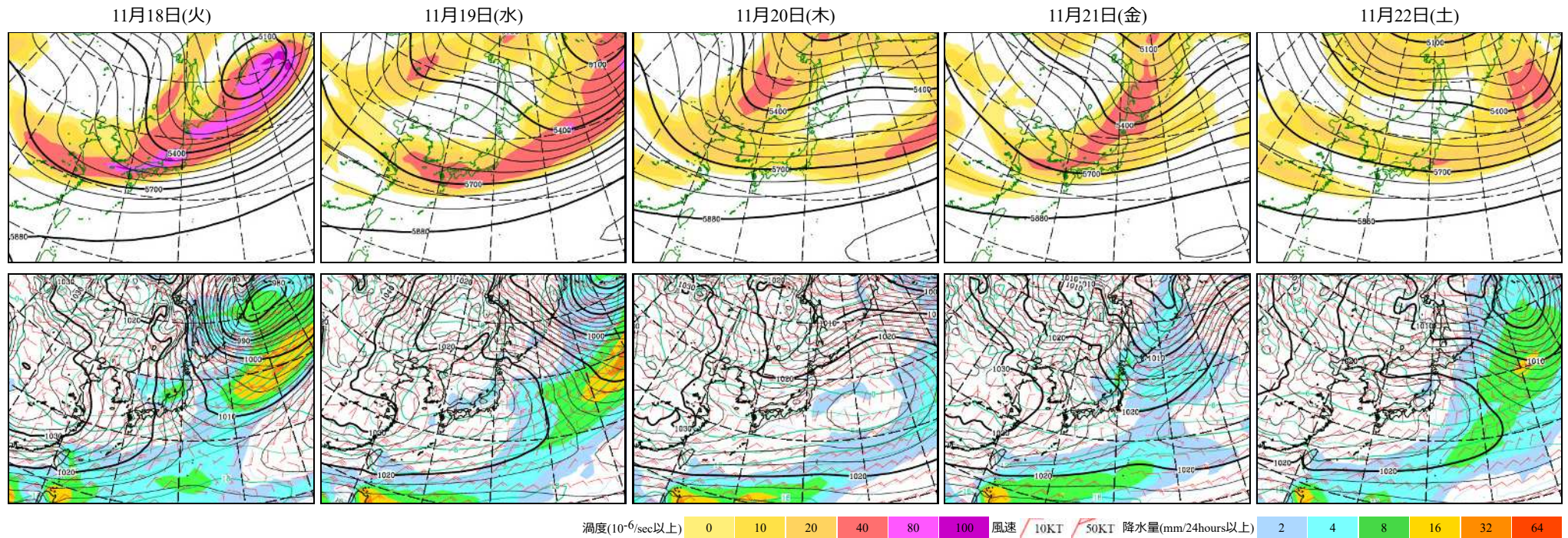
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

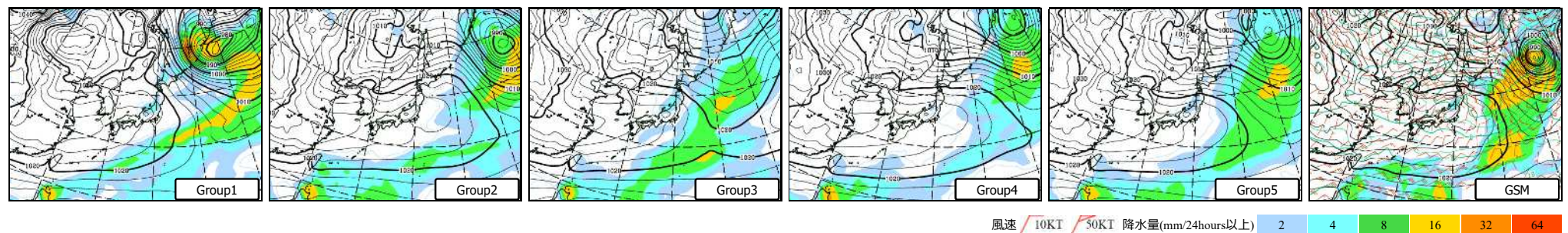


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月22日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、初期値変わりは小さいが、18日はカムチャツカ半島の東の低気圧が南により、20日から21日にかけて北日本付近を通過する気圧の谷が明瞭になった。
- 降水確率ガイダンスの値は、20日は北日本で低くなり、21日は北日本で高くなった。
- スプレッドは比較的小さいが、期間終わりの5400mの特定高度線のバラつきは大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。